

幼稚園の考査では人形やハサミなどの絵カードを見せられたあと、それらを隠して何があったかを尋ねるような記憶の問題があります。日常生活ではあり得ない場面なので、子どもは何を問われているかすら理解できません。何の準備もなく考査に臨むのは難しいですね。でも、これもちょっとした工夫で「遊び」に仕立てることができます。「手品ごっこ」にして親子で楽しみましょう。

【概要】 親がマジシャンになって物を隠し、何を隠したかを当てる遊びです。

【遊び方】 ①テーブルの上にキャンディーなどの小物を1つ置きます。

置いたらハンカチを上からかぶせておまじないを唱えます。

唱え終わってハンカチを取ると…。あ～ら不思議。

キャンディーがなくなっているではありませんか。

②そこで、すかさず子どもに尋ねます。

「あれ？さっきここに何かありましたか？」

③子どもは「キャンディーがあった！」と言うでしょう。そうしたら

「そう。確かキャンディーがありましたね。おかしいな。もう一度ハンカチをかぶせてみましょう。」と言ってかぶせます。

④そして、ハンカチを取ってみると、またそこにキャンディーが…。という手品です。

* 種明かしは簡単。ハンカチと一緒にキャンディーも摘まんでしまえばいいのです。



レベル1 上記の導入場面がレベル1です。

よく見ていないとそこにあった物がなくなってしまうという場面で、「覚えておこう」という気持ちにさせます。

レベル2 キャンディーのほかに摘まめるような小さな積み木もテーブルに載せます。

おまじないを唱えてハンカチをかぶせるところまでは同じです。

レベル2では、ハンカチを取るときにどちらか一方の物を摘まみ上げ、他方を残しておき、「あれ？ 何かなくなった？」と尋ねます。

レベル3 テーブルに置くものを3つ、4つと増やしていきます。考査の難問でも4つまでなので、あまり増やさない方がよいでしょう。

レベル4 考査と同じような場面設定で行います。

①ぬいぐるみを箱の中に幾つか置いて、ふたを閉め

(閉めるときに1つだけテーブルから落として

隠す)、また、開けて何がなくなったか尋ねる。

②絵カード4枚をテーブルに置き、しばらく見せたあと、いったん全部を裏返し、1枚ずつ表向きにしていく。残りの1枚は裏のままにし、何の絵だったかを当てさせる。

* レベル4はお勉強臭いので、先生役を交替して遊ぶとよいでしょう。

* 次ページにレベル4②の絵カード例を掲載しておきます。(素材は「いらすとや」より)

